ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

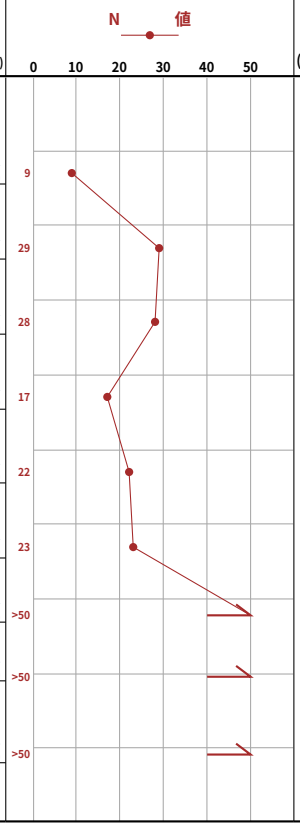
シートNO.

ボーリング名	B-1	調査位置						北　緯	36 ° 32 ' 14.2000 "
発注機関	栃木県鹿沼土木事務所			調査期間	2009-09-11 ～ 2009-09-15			東　経	139 ° 41 ' 11.0800 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	136.55 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘進長	9.20 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	136.15	0.40	0.40		表土 (SF)	灰褐	緩い		礫混じり砂質シルト。 植生根が多い。		
1 2	134.05	2.10	2.50		砂礫 (GS)	灰褐	中ぐらい		径10～40mm程度の亜角～亜円礫が主体。 マトリックスは砂で、細粒分が若干混じる。		
3 4 5	130.60	3.45	5.95		砂礫 (GS)	褐灰	中ぐらい		径10～30mm程度の角～亜角礫が主体。 掘進長5cm程度、推定礫径10～15cm内外の玉石が介在する。 マトリックスは細粒分質砂で、粘着性を帯びる。 深度5.65～5.95m付近は粘土分が優勢。		09/12 5.80
6 7	129.40	1.20	7.15		粘土混じり砂礫 (GS-C)	褐	中ぐらい		径10～40mm程度の角～亜角礫が主体。 最大礫径8cm程度の粗礫が混じる。 マトリックスは細粒分質砂。		
8 9	127.35	2.05	9.20		風化岩 (WR)	褐帯暗灰	非常に密な		軟岩。岩級区分：CL～D。 レキ状コアが主体の強風化砂岩(メランジュ)。 高角度の割目が発達する。 割目は風化褐変・変質を伴い、脆弱化が顕著。 深度8.65m付近より淡黄灰色を呈する		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	4	2	3	9／30	9
1.45					
2.15	12	9	8	29／30	29
2.45					
3.15	9	9	10	28／30	28
3.45					
4.15	4	5	8	17／30	17
4.45					
5.15	8	7	7	22／30	22
5.45					
6.15	8	7	8	23／30	23
6.45					
7.15	20	30／6		50／16	>50
7.31					
8.00	50			50／10	>50
8.10					
9.00	18	32		50／20	>50
9.20					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日